

(3)協議会・幹事会並びに各部会の平成29年度活動報告
及び平成30年度活動計画について

兵庫県がん診療連携協議会・幹事会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	○ 平成29年4月20日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第12回) 開催 ○ 平成29年6月15日(木) 第1回幹事会 開催 ○ 平成30年2月22日(木) 第2回幹事会開催 ○ 平成29年11月18日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第7回「ひょうご県民がんフォーラム」開催 242名参加 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「ここまで進んだがん治療」 担 当: 神戸大学医学部附属病院(代表)、神戸市立医療センター中央市民病院、 神戸市立西神戸医療センター、県立こども病院
平成30年度の活動計画 及び今後の検討課題等	○ 平成30年4月26日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第13回) 開催 ○ 平成30年6月14日(木) 第1回幹事会 開催 ○ 平成31年2月21日(木) 第2回幹事会開催 ○ 平成30年11月17日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第8回「ひょうご県民がんフォーラム」開催 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「 未定 」 担 当: 姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院

兵庫県がん診療連携協議会「研修・教育」部会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	○ 看護実務研修の開催(県立がんセンター) ・ 平成29年 5月30日～ 9月8日のうち34日間 ○ がん診療連携拠点病院を対象とする 「第3回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会」の開催 平成29年9月23日(土) 兵庫県立がんセンター 2F 大会議室 テーマ:「免疫チェックポイント阻害剤～チームで行う副作用マネジメント～」 20名参加 ○ セミナーの開催 ・ 「研修・教育」部会主催「外来化学療法セミナー」 平成29年10月7日(土) テーマ:「外来化学療法の10年間と今後の展望」 兵庫県民会館「けんみんホール」 155名参加 ・ 放射線セミナー 平成29年11月25日(土) 神戸市教育会館 大ホール テーマ:「前立腺がんの診断と治療-up date-」 108名参加 ・ 検査セミナー 平成30年1月13日(土) 兵庫県私学会館 テーマ:「乳がん」検査と治療 up to date 130名参加 ・ 薬剤師セミナー 平成30年1月20日(土) 兵庫県私学会館 テーマ:「胃癌治療の最新の話」 172名参加 及び「クリニカルクエストに基づく薬剤師からのエビデンスの発信 ～がん化学療法、支持療法そして緩和ケア～」 ○ 共催研究会・県民フォーラムなど ・ 第7回ひょうご県民がんフォーラム 平成29年11月18日(土) 242名参加 テーマ:「ここまで進んだ がん治療」 兵庫県民会館「けんみんホール」 担当施設:◎神戸大学医学部附属病院、神戸市立医療センター中央市民病院 神戸市立西神戸医療センター、県立こども病院 (地域別で持ち回りにて開催する)(再掲)
平成30年度の活動計画 及び今後の検討課題等	○ 看護実務研修の開催(県立がんセンター) ○ がん診療連携拠点病院を対象とする 「第4回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会」の開催 平成30年10月6日(土) 兵庫県立がんセンター 2F 大会議室 テーマ:「未定」 ○ セミナーの開催 ・ 「研修・教育」部会主催 「食道がんセミナー(予定)」 平成30年10月27日(土) テーマ:「未定」 兵庫県民会館「けんみんホール」 ・ 検査セミナー 平成30年12月8日(土) 兵庫県私学会館 ・ 薬剤師セミナー 平成30年12月15日(土) 兵庫県私学会館 ・ 放射線セミナー (秋頃予定) テーマ:「婦人科疾患」 ○ 共催研究会・県民フォーラムなど ・ 第8回ひょうご県民がんフォーラム 平成30年11月17日(土) テーマ:「未定」 兵庫県民会館「けんみんホール」 担当施設:◎姫路赤十字病院、姫路医療センター、赤穂市民病院、公立豊岡病院 (地域別で持ち回りにて開催する)

[兵庫県がん診療連携協議会について](#)[協議会・幹事会開催記録](#)[がん診療連携拠点病院とは](#)[これまでの活動報告](#)[今後の予定](#)

TOPICS

一般の方へ **医療関係者の方へ**

02/25 神戸医療センター「第9回 市民向けがん講演会」を開催します。

医療関係者の方へ

02/08「兵庫県立尼崎総合医療センター 第8回がん診療連携拠点病院医療者研修会」を開催します。

NEW!

一般の方へ **医療関係者の方へ**

01/27「第80回 西宮市市民健康講座」を開催します。

医療関係者の方へ

01/24「第76回 兵庫緩和ケア研修会」を開催します。

医療関係者の方へ

01/20「第10回薬剤師セミナー」を開催します。

医療関係者の方へ

01/13「第79回 兵庫県白血病懇話会プログラム」を開催します。

医療関係者の方へ

01/13「検査セミナー テーマ:乳がん 検査と治療 up to date」を開催します。

医療関係者の方へ

01/08「平成29年度兵庫県がん緩和ケアフォローアップ研修会」を開催します。

[兵庫県がん診療連携協議会について](#)[兵庫県がん診療連携拠点病院とは](#)[活動報告](#)[今後の予定](#)[お問い合わせ](#)[トップページ](#)

Copyright(C)2009 兵庫県がん診療連携協議会, 兵庫県立がんセンター All Rights Reserved.

兵庫県がん診療連携協議会「情報・連携」部会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告及び今後の検討課題等	1 活動計画 ・がん相談実務者ミーティングの開催;4回/年 第33回会議 2017年6月10日(土) 13:30～15:30 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】事例検討、その他 第34回会議 2017年9月30日(土) 13:00～15:30 場所:神戸大学医学部附属地域医療活性化センター 【内容】「兵庫県がん相談員研修」として別紙研修企画に基づいて開催 ※国立がん研究センター認定がん専門相談員の単位研修 第35回会議 2017年12月16日(土) 14:00～16:00 場所:県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】ピアサポーターを交えたピアサポーター活用事業に関する意見交換会 第36回会議 2018年3月10日(土)(予定) 13:30～15:30 場所:神戸大学医学部附属病院 第一病棟2階 共通カンファレンスルーム 【内容】PDCA実施状況チェックリストを用いた課題への取り組み状況評価の共有 ・がん相談実務者ミーティング事務局会議の開催 第17回会議 2017年6月10日(月)15:30～16:50 場所:兵庫県立がんセンター 2階 大会議室 【内容】 1.兵庫県がん相談実務者ミーティングの今年度の計画検討 2.兵庫県がん相談員研修の計画検討 3.神戸大学との共催によるピアサポーター養成研修の開催について 4.ピアサポーターの質の維持・向上を目的としたフォローアップ研修開催について 第18回会議 2017年11月9日(木) 15:00～17:00 場所:神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 談話室 【内容】 1.兵庫県のがん対策推進計画(素案)の確認 2.ピアサポートの体制づくり・継続学習の支援について 第19回会議 2018年2月14日(水) 10:00～12:00 場所:神戸大学医学部附属病院 外来診療棟4階 第3会議室 【内容】 1.今年度の活動評価と次年度の目標・計画立案 2.ピアサポート事業研修内容の検討 3.平成30年度 がん相談実務者ミーティング開催日の検討 2 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会 第9回部会 2017年7月12日(水) 13:00～16:30 場所:国立がん研究センター国際交流会館3階 【内容】 1.第3期がん対策推進基本計画案の概要とがん相談支援センターの機能、役割について 2.「がん相談支援センターの相談対応体制と情報提供環境に関するアンケート」の中間報告ならびにそれに基づく今後の部会活動について 3.その他
平成30年度の活動計画及び今後の検討課題等	1 活動計画 1)がん相談実務者ミーティングを年4回開催する 【日程】 【内容】 2)地域がん相談支援フォーラムin近畿への運営支援

第 33 回 がん相談支援センター実務者ミーティング 議事録

日 時 : 平成 29 年 6 月 10 日 (土) 13 : 30～15 : 30
場 所 : 兵庫県立がんセンター 2 階 大会議室
当 番 : 兵庫県立柏原病院
出席者 : 別紙出席者名簿参照

【 議 題 】

(1) 事例検討

※内容詳細については、次回実務者ミーティングにて配布します。

(2) その他連絡事項

●平成 29 年度ピアサポーター養成研修・フォローアップ研修について

開催日 : 9 月 30 日 (土) ・ 10 月 1 日 (日)

場 所 : 神戸大学医学部附属病院 施設

※詳細については、後日メーリングリストにて連絡

●次回 日 程 ▶ 9 月 30 日 (土)

場 所 ▶ 神戸大学医学部附属病院 施設

当番病院 ▶ 県立淡路医療センター

第 34 回 がん相談支援センター実務者ミーティング 議事録

【平成 29 年度兵庫県がん相談実務者研修～ピアサポーターの効果的な活用のために】

日時：平成 29 年 9 月 30 日（土） 13：00～15：30

場所：神戸大学医学部附属地域医療活性化センター 2 階

当番：兵庫県立淡路医療センター

出席者：31 名（別紙 “出席者名簿” を参照）

1. グループワーク①

テーマ：「自施設のピアサポーター活用の現状と課題の共有」

各グループにて情報交換を行う。（結果は“5. 全体共有”を参照）

2. 講義 1 講師：白石恵子先生（九州がんセンター サイコオンコロジー科 臨床心理士）

福岡県のピアサポーター活用の現状

<ピアサポーター活用のきっかけ>

- ・2010 年頃、ピアサポーターに興味を持っていた乳腺科の医師と乳がん経験者数名が、当時すでに有効に活用されていたアメリカへ行き、そのピアサポーター団体とディスカッションをしたことが始まり。既に同じがん種の人をマッチングさせる仕組みがあった。
- ・2012 年頃、ポートランドへ研修に行った際、病院のあちこちにボランティアのピアサポーターがニコニコと座っており、いつでも相談を受けられるような体制が整っていた。

<ピアサポーター活用の問題点>

- ・外来の途中にピアサポーターを紹介することを負担に思う医師・看護師が多い。
- ・ピアサポーターに興味のない看護師もいるので、なかなか患者さんに広まらない。
- ・1 対 1 で相談を受けた場合、「言った言わない」という問題が起こることがある。
- ・「内容が重すぎて受け止めきれない」など、ピアサポーターに負担がかかる。
- ・2013 年～2015 年、県のモデル事業として、ピアサポーターの養成講座を開催するが、養成講座を受けたからといって、ピアサポーターとして適任かどうかは分からない。
- ・不要な発言や何かあった時に誰が責任をとるのか。
- ・がん種が違くと治療の方法なども違うため話をするのが難しい。

<ピアサポーターの活用状況>

- ・新病院開設時にピアサポーターが自由に使える大きなサロン部屋やロッカーを設けた。
- ・毎週水曜の午後、サロンに人が集まり、「親身に聞いてくれた」と喜んで帰る人もいる。
- ・サロンの周知活動として、院内放送で呼びかけたり、ティッシュを配ったりしている。

- ・病院 vs.ピアサポーター&患者の対立構造ができないよう、要望や不満が膨れ上がる前に上層部に報告するなどして対処している。

3. 講義2 『ピアサポーター養成と活動の実際～愛媛での取り組み～』

講師：松本陽子先生（NPO 法人 愛媛がんサポートおれんじの会 理事長）

ピアサポーター養成と活動の実際～愛媛での取り組み～

<ピアサポート活動を始めたきっかけ>

- ・自分ががんで入院した時、同室の患者さんがタオル帽子を縫ってくれた。
- ・検査結果が悪くて落ち込んでいた時、同室の患者さんがアドバイスをくれたが、医師や看護師よりも経験者に言われた方が素直に受け止めることができた。
- ・もし元気になったならば、同じような患者のために力になりたいと思い、患者家族の会を立ち上げる。

<オレンジの会のピアサポート活動>

- ・任意団体として独自にピアサポーター養成活動を始めるが、行政に委託事業の申請を出せないためNPO法人化する。現在は県の委託事業として、ピアサポーターの養成研修を県のお金で開催している。
- ・ピアサポーターの派遣はボランティアではなく、県の予算を取り、賃金と交通費を支払いプロとして活動している。
- ・病院サロンと町なかサロンがあり、院内サロンは県内7拠点病院中5施設に派遣、残り2施設は地理的に遠いため、地元の方と病院スタッフがメインで運営している。
院外サロンは県の予算で運営しており、利便性の高い市街地に常設されている。週に一度は医師や看護師による相談も受けている。
- ・週末に各地でセミナーを開催したり、俳句の町らしく句会を行ったり、緩和ケア病棟への見学会を行ったりしている。

<愛媛での養成事業>

- ・県の委託事業として、年に1回2日間、合計14時間の基礎研修を行っている。
- ・厚生労働省「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム」のテキストや産業カウンセラーであるおれんじの会副理事長のオリジナル教材を使用し傾聴に力を入れている。
- ・基礎研修後、【継続研修、実地研修、レポート提出】→【最終面談】→【登録】→【活動開始】という手順を踏み、現在25名登録、23名が活動している。

<事例検討会>

- ・事例検討会を2か月に1回開催している。難しかった事例を抽出し、みんなでディスカッションしている。年6回開催中、3回以上欠席したらピアサポート活動を停止する。（ピアサポート活動を続けるという強い意志と自己決断を課している）

- ・ピアサポーターは面と向かって非難されることや自分の対応がまずかったのではないかという負荷を感じることがあるため、事例検討会は心の重荷を解いたりピアサポーター同士の相互理解や信頼にもつながる。

<相談支援センターとの関わり>

- ・それぞれのサロンにピアサポーター責任者を1人設定し、相談支援センターの責任者と企画や運営などを協議している。
- ・再発した乳がんの治療費が払えなくて半年間病院へ行っていないという患者さんなどは、相談支援センターへ紹介している。

【注意していること】

- ・運営主体はあくまでも病院であり、それぞれの病院の運営方針に従っている。
- ・おれんじの会のPRや入会の勧誘はサロンでは行わない。参加者から問い合わせがあれば、他の患者団体などの情報も一緒に提供し、選択をゆだねている。
- ・サロンの情報を病院と共有するため、報告書を提出し、意見交換会を開催している。

【期待していること】

- ・サロンがどのように意義があることなのか、特にピアサポーターを必要としている患者の情報を一番にキャッチしている病棟看護師へ周知して欲しい。
- ・ピアサポーターを必要とする患者・家族への情報提供を相談窓口で行ってほしい。

<国の動き>

【第3期がん対策推進基本計画】より、

[現状・課題]

- ・「がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供、患者同士の体験を共有できる場の存在は重要であることから、都道府県等は、ピアサポート研修を行い、ピアサポーターを養成している。」

[取り組むべき施策]

- ・「ピアサポートについては、国が作成した研修プログラムの活用状況について、実態調査を行う。ピアサポートが普及しない原因を分析した上で研修内容の見直しや、ピアサポートの普及を図る。」

◎ピアサポートが重要であることを認識されており、今後、ますます踏み込んだものになると思われる。また、拠点病院の指定要件が見直されており、サロンの設置が必須になると思われる。

<医療とピアサポートの連携>

- ・医療者による助言・問題解決と同時にピアサポーターなどの仲間による共感・問題の整理な

ども重要であり、2つの手があって初めて患者を支えることができる。

- ・患者は命が助かったからといってそれで終わりではなく、そこから重荷を背負って生きていかなければならない。その支えは患者力だけでは不十分であり、ピアサポーターと医療従事者が連携・協力していく必要がある。

4. グループワーク②

テーマ：「自施設で実施可能なピアサポーターの活用の在り方」

各グループにて情報交換を行う。（結果は“5. 全体共有”を参照）

5. 全体共有

<現状と課題>

- ・患者会がすでにあるので、ピアサポーターについて上層部の理解が得られない。また、県の方針が不明確で活用しにくい。
- ・サロンの周知を院内スタッフや患者・家族にもできていないため、集まる人が少ない。
- ・支えることの不安や覚悟、生活・体調・高齢、責任や保障、遠方で開催される養成研修を受講できないなど、ピアサポーターになってくれる人材がいない。
- ・医療の相談を受けない原則への理解が難しく、不要な情報を伝えられる恐れがある。また、養成講座を修了しても、経歴だけではわからない人の資質・対応力、2人体制にした場合の相性など、人間関係がとても難しい。

<活用の在り方>

- ・上層部に理解してもらうため、活動内容や情報など具体的な事例を報告・発信する。
- ・サロンやピアサポーターをPRするためのポスターや冊子などがあれば良い。
- ・ピアサポーターの不安や負担がなくなるよう、責任・保障、相談場所、交通費・相談料など、きちんとした体制を作る必要がある。

<白石先生よりまとめ>

- ・ピアサポーターに相談員のレベルを求めない。ピアサポーターだからこそできることがある。
- ・無理やりにピアサポーターを紹介するのではなく、その患者にとっての必要性を見極め、患者さん自身で行くようにすることでトラブルが起こりにくくなる。
- ・ピアサポーターの良いところを最大限活かすためには、まず私たちがピアサポーターを信じるという気持ちが大切である。

※次回実務者ミーティングの開催について

日時：H29年12月16日（土） 当番：姫路赤十字病院

第 35 回 がん相談支援センター 実務者ミーティング 議事録

日時：2017 年 12 月 16 日 14：00～16：00

場所：兵庫県立がんセンター2 階 大会議室

当番病院：姫路赤十字病院 井上豊子 福井由紀子

出席人数：実務者 33 名（別紙参照）ピアサポーター14 名

1. オリエンテーション 14：00～14：10

2. グループワーク → 結果の共有 14：10～15：30

テーマ『ピアサポーターの活用に向けた現状と課題について』

A グループ

《現状》

ピアサポートは動いていない施設ばかりである。

施設としてはトラブルに対して慎重にならざるを得ない。

《課題》

サロンの開設からはじめていく→土壌づくりからはじめていく。

院内での周知のため広報をすすめる。顔が見える関係からはじめていく。できるところからはじめていく。

B グループ

《現状》

サロンを定期的開催→知識をもって対応できる

面談の実施までは至っていない。今回、活動内容の共有ができた。

《課題》

ピアサポーターとの関係性ができていない状況での活用はハードルが高い

→対策としては院内のサロンを活用していく。ピアサポーターにサロンに入ってもらい、活動の場をつくっていく。

院外でのサロンでの活動などを知ることで、顔が見える関係や広報につながるのでピアサポーターにも参加していただく。

C グループ

《現状》

ピアサポーターの活用の準備ができているのは一部施設だけの現状。

病院内で上層部との調整が困難な施設もある。上層部は患者間のトラブルを心配しており、今後もピアサポーターの活用に関する調整が必要。

《課題》

サロンに参加して頂き、その後の流れで個別に話を聞いてもらう方が自然かもしれない。相談支援の中でピアサポートのニーズもあるので、今後も患者に広報していく必要がある。2名で面談をしなくてはならないが、相談員としては2対1で圧迫感はないか心配。→二人で補い合ったり、調整しあうなどの力動が働くので圧迫感の心配はない。今後、ピアサポーターの活用としては、型にはまらずに進めていくことが大切。

D グループ

《現状》

院内からのなり手がいないのが問題としてあがった。サロンの中で興味のある人を見つけることも難しい。

乳がんの患者に限定して、現在はなり手を探している。

《課題》

ピアサポーターってなに？という状況がある→啓蒙が大事。
開催場所が病院だと限界があり、場所の確保が課題である。→病院個々が行うのではなく、県を中心としたシステムの構築が必要。ピアサポーターによる講演などの広報も重要

E グループ

《現状》

ピアサポーターを低いハードルで活用できるようにしたい。利用者が利用しやすい環境をつくりたい。

利用者が必要としているときにサービスを活用できない状況でもある→広報が重要

《課題》

ピアサポーターもチームの一員としての認識が大事。医療者とくに医師から紹介されることも大事ではないか。

現在の当たり前を変えていくことが大切、がんになる前からの広報も大切にしていきたい。ピアサポーターの広報、同時にピアサポーターになれることも広報する。

また、同時にニーズに応えていくことも大きな役割だと思う。

→療養生活上の工夫、自分がどうやって工夫していったかの情報の提供ができるという役割もある。

F グループ

《現状》

地域差があることを実感している。患者さん自身ががんであることを人に知られたくない

状況が多い地域→自分が病気であることを話すことが難しい状況である。しかしピアサポーターの必要性は感じている。

遠方からのサポーターさんを活用するためには、交通費や保障の定義が重要になってくる。→自費になってしまうと、ピアサポーターも続けにくいというのが現実だと思う。

《課題》

活発に活動しているサロンの見学に行く。

パンフレットだけでは伝わりにくいものもあるが、サポーターからもアピールしてもらう方が伝わりやすいこともある。サロンの活用も大事にしていく。

広報を積極的に行っていき、利用者のハードルを下げていく努力が大切だと思う。

《グループワークのまとめ》

- ・2対1の活動が進んでいない現状がある。
- ・周知の問題、上層部の理解が得られないこと、トラブルに対する不安、2対1での活動への不安などが共通した問題としてあがった。
- ・対策としてはサロンの活発化があがっていた

《ディスカッション》

1)病院の中でピアサポーターに関する講演を行うというアイデアがあったが、具体的に教えてほしい。

回答：病院の中でピアサポーターのなり手が少ないというのは、イメージがつかないという要因もあると考えている。このため、ピアサポーターから他の病院のサポーター候補生に伝えていくことで、顔が見えたり、自分たちにできることを知ってもらえるのではないかと考えている。

→ピアサポーター自身が、院内のサロンに積極的に参加していき参加者にも伝えていくことも大事だと思うとの意見もあった。

2)同じ兵庫県の中でも地域差があることについて

がんをがんと認めてがんサロンに行ける人と、行くことであの人はがんだ、ということを知られることに対する抵抗感からなかなか参加できないという現状がある。

また多くの場合、神戸方面で研修が行われるので、遠方から参加することも困難だという問題もある。地元でピアサポーターの研修ができれば、ピアサポーターに興味のある人も参加しやすいし、やりやすいのではないか。

地域でがんサロンマップをつくってはどうか→近隣のがんサロンならサポーターも参加しやすいのではないか。

研修が年1回ではなく多数回、開催することで困ったことなどを忘れないうちに共有できるのではないか。

3)ピアサポーターであることを証明するカードなどの導入に対する要望

ピアサポーターより、自分自身が登録されているピアサポーターであることを証明する手段が何もないので、携行して身分保障できるカード上のものを作成してもらいたいという要望が多い。実際にがん市民パネルのピアサポーターに登録されている人からは、カードを携帯することが広報にも有用だったという実感があるので検討してもらいたい。

4)ピアサポーターとして活用されないことに対する問題提起

今までがん患者さんを支えるためのいろんな活動を今まで行ってきた実績はあるが、ピアサポーターとして登録しても特定の患者会に所属していない場合、自分の経験がどこにも活用されないのではどうしたら良いのかという思いがある。

→自分自身を活用してもらえよう、サロンなどに顔を出していただき、活用してもらえ関係性作りからはじめてみてはどうだろうか。

5)契約書の基盤ベースとなるものを県がつくるとなっていたが、どうなったのか？

ある程度の契約が無ければ交通費などの規定がなく具体的な活動に結び付けにくいという思いがある。

→県より：病院ごとに多彩な事情があるので、県としては統一したものをつくる方向ではないというのが去年の話と聞いている。各施設の実情を踏まえて、作成の方向で検討してもらいたい。

《兵庫県から》

院内への周知、トラブルへの対処をどうしていくのか、上層部の理解がなかなか得られないなどさまざまな問題があることがわかった。

制度的に問題がないというものではないことも認識している。県としても問題に対してできるものに関しては対応を考えていきたいと考えている。

活動ができないという声もあったが、まずは顔が見える関係が必要だと思うので サロンへの参加などを検討してもらいたい。

地域ごとの研修の開催や多数回の開催という意見に関しては、何回の開催が現実的なのか、考えていきたい。

登録証の希望に関しては、『認定証』となるとハードルが高いが、『登録証』というものなら発行できないか前向きに検討したい。公的に出すものなので、期間設定をするなどの具体的な検討をしていきたい。

3.連絡事項 15：30～16:00

・西神戸医療センターより

研究(インタビュー)への参加者募集のお知らせ。

・県立がんセンターから

地域がん支援フォーラムイン近畿@奈良が2月17日(土)のお知らせ。

・次回の実務者ミーティングについて

次回は3月10日に開催予定。神大共通カンファレンスルームで関西労災病院が担当病院。
次回は各病院でPDCAサイクルの評価したものを持ち寄り、今年度の活動の内容と次年度の取り組みを発表し共有する予定。

第 17 回 がん相談支援センター実務者ミーティング事務局会議 議事録

日時：平成 29 年 6 月 10 日（月）15:30～16:50

場所：兵庫県立がんセンター 2 階 大会議室

参加者：兵庫県疾病対策課（鶴井成央、西村牧子）、兵庫県立がんセンター（橋口周子）、神戸大学医学部附属病院（木澤義之、岸野恵、酒見惇子）、兵庫医科大学病院（西村裕美子、三浦恵理子）、神戸市立西神戸医療センター（稲山友代、御園和美）

※同席：兵庫県立大学大学院生

議事内容

1. 本年度の活動計画について（活動目標の表に併せて進行）

1) がん相談支援の質の向上、活用の促進に努める

- ・各施設がチェックリストをもとに問題点を明らかにして、質の改善計画を立案した。平成 29 年 3 月に開催した実務者ミーティングで、各施設の平成 29 年度の活動計画を共有した。
- ・毎回実務者ミーティングで、活動目標の達成状況を共有することが望ましい。
- ・全 4 回の実務者ミーティングの内容は以下とする。

	日程	内容	開催場所	担当病院
第1回	6月10日	事例検討	県立がんセンター	柏原病院
第2回	9月30日	相談員がピアサポーターと連携する上で必要なこと （※単位認定研修）	神戸大学病院	淡路医療センター
第3回	12月2日、9日、16日	ピアサポーターとの交流会 （※午前中、ピアサポーターフォローアップ研修）	県立がんセンター	姫路赤十字病院
第4回	3月3日、10日、17日	各施設の質改善活動の評価	県立がんセンター	関西労災病院

2) がん患者の就労支援を行う体制づくりをする

- ・兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センターと拠点病院の連携事業について、平成 29 年 3 月の実務者ミーティングで紹介を行った。
- ・施設によって連携先や内容が異なっているため、各施設の就労支援体制の共有を行い、まとめていきたい。毎回の実務者ミーティングで、連携状況等を報告する。

3) がん患者のピアサポートの体制づくり・継続を支援する

- ・県に登録されているピアサポーターは 3 か所以上の施設にいるが、2 対 1 の相談支援にまでには至っていない。各施設でのピアサポーターの相談支援体制の整備状況と、整備が困難な場合の理由を情報収集する（橋口さん）。
- ・がん対策推進基本計画が今年 7 月頃に策定されるが、今後ピアサポート事業ががん診療連携拠点病院の要件となる可能性が高い。その見通しを立てて動いていく必要がある。

4) 情報・連携部会と実務者ミーティングの合併について

- ・情報・連携部会に実務者を部会員にしてもらうように再度説明を行う。困難な場合は、情報・連携部会長から電話で各病院に相談を行うことも検討している。今年中に完了を目指す。
- ・実務者ミーティングは部会員以外の実務者でも出席可能とする。

5) 県内のがん相談支援の質の向上を推進する人材を育成について

- ・平成 29 年 6 月時点で、兵庫県の認定がん専門相談員は 13 名である。今年度も、引き続き呼び

かけを行い、新規 4 名の認定を目指す。

- ・認定がん専門相談員は、国立がんセンターが認定している事業であり、現時点ではがん診療連携拠点病院の要件には入っていないが、今後がん相談支援センターへの配置が求められる可能性が高い。

2. 単位認定研修について

- ・第 2 回実務者ミーティングは、単位認定研修とする。
- ・相談員の相談スキル向上を目的とし、単位認定に必要な研修時間を考慮し 2 時間半で開催する。
- ・同日開催するピアサポーター養成研修の講師である、おれんじの会代表の松本陽子氏にピアサポートの実際・病院での運用について、九州がんセンターの白石恵子氏にピアサポーターを支援するために必要なことを講演いただけないか調整する。謝礼は協議会より。

3. ピアサポート事業について

1) ピアサポーター養成研修

- ・平成 29 年 9 月 30 日（土）、10 月 1 日（日）に神戸大学医学部附属病院で開催する。6 月中に広報を開始する予定。
- ・募集定員を超えた場合は、地域性を優先し、受講申込書の記載内容により書類審査を行う。
- ・今年度より、養成研修を修了した時点で、県のピアサポーターとして登録できることとする。
- ・平成 28 年度のピアサポーター養成研修の部分参加者で今年度の参加希望者がいる場合は、2 日間参加していただく。
- ・平成 28 年度と同様、ピアサポート事業の理解、ピアサポーターを知ることを目的に、がん相談員のオブザーバーを若干名受け入れる。

2) フォローアップ研修

- ・フォローアップ研修の位置づけが明確でなく、混乱を招く可能性が高い。受講者にわかりやすいように、全体像が分かる図の作成が必要である。県で作成していただく。
- ・昨年度は難易度をあげてフォローアップ研修を行ったが、難しかったとの意見があった。今年度は、研修の目的を「質の維持」「質の向上」とし、難易度の異なる 2 つの研修を行う。
 - ①フォローアップ研修（質の維持）：養成研修 2 日目、ロールプレイの実践
 - ②フォローアップ研修（質の向上）：交流会の午前中、ロールプレイの難易度を上げる
- ・研修の内容に合わせて研修名を変える（例：ベーシック/アドバンス）など、兵庫県の方で再度検討を行う必要がある。
- ・今後、養成研修とフォローアップ研修は県の事業として行っていただくものとなるため、県で計画と予算を話し合っていただく必要がある。

4. その他

1) 地域がん支援フォーラム in 近畿について

- ・今年は奈良県と和歌山県が主催のため、協力要請が来ている。相談支援部門と現場、外との連携がテーマ。兵庫県の情報連携部会として協力していく。県のほうにも協力依頼を行う。

5. 次回日程確認

次回は、7 月後半または 8 月最初で日程調整を行う。

次回は年間目標を書き足していく。

第 18 回 がん相談支援センター実務者ミーティング事務局会議 議事録

日 時：平成 29 年 11 月 9 日（木）15:00～17:00

場 所：神戸大学医学部附属病院 4 階 談話室

参加者：兵庫県疾病対策課（鶴井成央、西村牧子）、兵庫県立がんセンター（橋口周子）、神戸大学医学部附属病院（木澤義之、酒見惇子）、兵庫医科大学病院（西村裕美子）、西神戸医療センター（御園和美）

議事内容

1. 兵庫県のがん対策推進計画(素案)の確認

1) 「兵庫県がん対策推進計画（素案）第 3 節医療体制の充実 3 がん患者の療養生活の質の維持向上（3）相談支援体制の充実」について

- ・兵庫県の西村氏より、兵庫県のがん対策推進計画（素案）の概要について説明いただいた。就労、妊孕性など多様化するニーズに対して、正しい情報提供と相談支援体制の実現を個別目標として掲げられている。
- ・相談支援については数値化することが困難なため、具体的な数値目標は立てていない。
- ・個別目標の 2 番目と 3 番目には、病状や治療等を学ぶことができる環境整備が挙げられているが、がん相談支援センターの利用を推進する方策は具体的には決まっていない。
→がん相談支援センターの満足度や活用度について利用者調査を行っている病院もあるが、認知度については患者調査を行わなければ、把握は難しい。
- ・国の方で、PDCA サイクルを用いた相談支援の質の担保と格差の解消を図るよう施策としてあげられており、兵庫県でもすでに取り組まれているため、県の基本計画にも追加してはどうか。
- ・推進方策のアには、「県内のがん患者団体の連合体との意見交換を毎年定期的に行い、がん患者の視点に立った取り組みを実施するよう努める」とされている。ここで暗に示されているひょうごがん患者連絡会について、県内すべてのがん患者団体を代表していないこと、医療機関と建設的な話し合いが困難であること、実際に複数の医療機関の上層部から連携することに拒否的な反応があり新たに推進しているピアサポーター導入にも影響があること、などの問題がある。特定の患者団体との関係性構築ではなく、がん患者との意見交換と意見を取り入れた取り組みを行うべきとの意見が出た。
→情報・連携部会より、推進方策の文言変更の要望を行った。（「がん患者団体の連合体との意見交換」→「がん患者との意見交換」）

2) 「第 4 節がん患者を支える社会の構築 1 就労支援体制の構築」について

- ・個別目標に「ハローワーク、産業保健総合支援センター、社会保険労務士会等と連携した就労支援体制を構築する」とされている。
→病院ごとに、連携しやすい組織と就労支援体制を構築している。連携促進のため、産業保健総合支援センターには、実務者ミーティングで支援体制の説明をしていただいた。今後、各組織の支援内容の差異や支援の具体例などの共有をはかっていきたい。
- ・兵庫県労働局にて、兵庫県地域両立支援推進チームが設置された。がんに限定していないが、両立支援の推進事業のひとつであるため、動向を確認していく。
- ・国の第三次がん診療推進基本計画 64 ページの個別目標を、県としても取り入れていく必要があ

るのではないか。

3) 情報・連携部会の事業計画について

- ・今後取り組むべき事業については、PDCA サイクルに概ね組み込まれている。
→今後追記していく項目
 - ・がん相談支援センターの利用促進に向けた周知活動の実施
 - ・実務者ミーティングの場での、就労支援関連の各組織の支援内容や協働の実例の共有

2. ピアサポートの体制づくり・継続学習の支援について

- ・10月に開催したフォローアップ研修において、参加者の1名に聴力の問題がありグループワークに参加できる状況ではなかった。また、ご自身の考えを強く主張する場面も見られ、他の参加者が今後のピアサポート活動に不安を感じるなどの影響があった。
→12月に開催するフォローアップ研修にも申し込まれているが、研修がグループワークとロールプレイが中心であり、聴力の問題から参加基準に適さないと考える。県の方から、参加の断りを伝えていただく。
- ・次年度の計画として、ピアサポート事業は県主導で継続していくことを確認した。
→来年度の予算申請時に予算を確保できておらず、財源が不透明である。2月中旬に県の予算がたつため、その結果を待つ。今後ピアサポーターの養成は必須となると予想されるが、県の予算が確保できない場合は、各病院で持ち回りで負担する必要も出てくるだろう。
- ・ピアサポーターの質の担保が必要となる。
→兵庫県でのピアサポーター養成研修の目的は、サロンや患者会などの場面で必要となる最低限のコミュニケーションスキルや姿勢を習得することである。今後も研修会の内容等を検討していく。

3. その他

- ・相談員の質の担保も検討していかなければならない。
→利用者調査などを実施して、フィードバックを得ていく。
- ・地域相談支援フォーラム in 近畿が2月に開催される。参加申し込みが始まり次第、申し込みをしていただく。
→次回近畿で開催する場合は、兵庫県が主担当県となる可能性が高い。
- ・本年度の第4回実務者ミーティングの日程は、3月10日（土）13:30～15:30とする。
→内容は、各施設の質改善活動の評価と来年度の事業計画の発表とする。第3回の実務者ミーティングの際に、評価シートの作成をしていただくよう連絡する。

4. 次回日程確認

日時：2月14日（水）10:00～12:00

場所：神戸大学病院

内容：平成29年度の事業評価と平成30年度の事業計画

兵庫県がん診療連携協議会「がん登録」部会関連

項 目	内 容
平成29年度の活動報告	○ 院内がん登録実務者ミーティングの開催(年3回開催) ・ 第1回・院内がん登録実務者研修、グループ討議等 (5月24日:県立がんセンター) テーマ:兵庫県院内がん登録実務者ミーティング開催要領と今後の活動について ー各圏域ブロックにおける治療統計分析ー ・ 第2回・院内がん登録実務者ミーティング(研修) (9月15日:兵庫県学校厚生会館) テーマ:標準登録様式2016年版について UICC第8版について 講師:国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 江森 佳子 ・ 第3回・院内がん登録実務者ミーティング (2月14日:県立がんセンター) テーマ:2015年登録数と治療別集計の公表案と今後の登録についての検討 公表案は「別表」参照 ○ 「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」への参加 ・ と き:6月16日 ・ ところ:国際研究交流会館(国立がん研究センター) ・ 内 容:報告事項(がん登録関連の動き、院内がん登録2015年全国集計結果 等) 検討事項(全国集計の公表方法、予後調査支援事業 等) ＊ 全国がん登録実務者研修会の開催 (8月25日:神戸大学医学部会館シスメックスホール) ・ テーマ:全国がん登録への届出実務～電子届出票の作成から提出まで～ ・ 講 師:国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 全国がん登録分析室長 柴田亜希子氏
平成30年度の活動計画及び今後の検討課題等	○ がん診療連携協議会 がん登録部会 ・ 6月開催予定 ○ 院内がん登録実務者ミーティングの開催 ・ 年2回開催予定 (講義形式(9月)、院内がん登録数集計報告等(2月)を予定) ○ 「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」への参加 ・ 5月25日開催予定 ＊ 全国がん登録に関する研修会の開催(予定) ・ 開催時期、内容未定

平成29年度 がん登録実務者ミーティング（概要）

	開催日	内 容	開催場所	参加者
第1回	5月24日	○がん登録実務者ミーティング開催要領と今後の活動について ○グループ討議、発表、意見交換 ・兵庫県で登録数の多いがん（大腸・肺・胃）の病期・治療別 2014 年集計結果分析 ・兵庫県がん診療連携協議会ホームページでの公表のしかたについて	県立がんセンター	35 病院 54 人
第2回	9月15日	○がん登録実務者研修 テーマ：標準登録様式 2016 年版について、UICC第8版について 講 師：国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 江森佳子氏	兵庫県学校厚生会館	44 病院 77 人
第3回	2月14日 (予定)	○2015 年登録数と、治療別集計の分析と今後の登録についての検討 ・兵庫県がん診療連携協議会ホームページ公表案について ・兵庫県で登録数の多い3大がん（大腸・肺・胃）の病期・治療法別 2015 年集計結果の分析について ・届出後の初回治療の追加登録について	県立がんセンター	—

全国がん登録実務者研修会（概要）

開催日	内 容	出席者数
8月25日	○開催場所：神戸大学医学部会館シスメックスホール ○テーマ：全国がん登録への届出実務 ～電子届出票の作成から提出まで～ ○講 師：国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 全国がん登録分析室長 柴田亜希子氏	192 人

兵庫県がん診療連携協議会「緩和ケア」部会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	○第5回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(12月8日,国がん) ○ 兵庫県緩和ケアチーム研修会 (平成29年11月11日(土)) ※上記会議、近畿中央病院主催・兵庫県私学会館にて開催(74名参加) ○ 緩和ケア研修会の開催 - 平成29年度緩和ケア研修会指導者の会と患者会との合同検討会(平成29年11月11日(土)) ※上記会議、兵庫県私学会館にて開催(25名参加) - 平成29年度緩和ケア研修会指導者の会(平成30年3月18日(日)) ○ 緩和ケアフォローアップ研修会の開催 (平成30年1月8日)
平成30年度の活動計画 及び今後の検討課題等	○都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(未定) ○ 緩和ケア研修会の開催(1日型となるため、開催日程未調整) - 緩和ケア研修会指導者の会と患者会との合同検討会 (平成31年1月12日) ○ 兵庫県緩和ケアチーム研修会 (平成31年1月12日) がんセンター主催 「地域をサポートする緩和ケアチーム」 ○ 緩和ケアフォローアップ研修会の開催 (せん妄、日未定)

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

第5回 緩和ケア部会 開催記録

更新日:2017年12月18日 [[更新履歴](#)]

平成29年12月8日、第5回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会が国立がん研究センターで開催された(資料:議事次第)。各都道府県がん診療連携拠点病院の緩和ケア部門の責任者および実務者、各都道府県の緩和ケア関連会議の責任者が出席し、合計61施設から106名の緩和ケアの関係者が参加した。また、患者の立場から波多江伸子氏(福岡がん患者団体ネットワーク「がん・パッテン・元気隊」)、前川育氏(特定非営利活動法人周南いのちを考える会)の2名がオブザーバーとして参加した(資料:出席者名簿)。

冒頭、国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦より、第3期がん対策推進基本計画では、がん診療連携拠点病院(以下、拠点病院と示す。)の緩和ケアの診療機能の強化や質の向上に取り組むことが求められている。現在は、拠点病院の整備指針の見直しが進められており、本部会からの提案等についても議論したい旨、あいさつがなされた。以後、議事次第に沿って、部会長 国立がん研究センターがん対策情報センター 加藤雅志が議事進行した。



まず、厚生労働省健康局がん・疾病対策課 久保田陽介 課長補佐 より がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針の改正を含む、緩和ケアの施策の現状と(資料1-1)、市立札幌病院 上村恵一先生(日本緩和医療学会 委託事業委員会 委員長)より緩和ケア研修会の改定に伴う、e-learning 導入(資料1-2) について紹介がなされた。

次に、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の活動として、第3期がん対策推進基本計画を踏まえたがん診療連携拠点病院に求められる機能に関する厚生労働省への提案について報告がなされた(資料2)。

その後、緩和ケアの質の向上に関する事前アンケート結果(資料3-1)の説明があり、大阪国際がんセンター 飯島正平先生より大阪府緩和ケア部会のPDCAサイクル手法の導入状況(資料3-2)、福井大学医学部附属病院 片山寛次先生より、福井県の緩和ケア地域連携推進のための取り組み(資料3-3)、三重大学医学部附属病院 松原貴子先生より、三重県緩和ケア部会の緩和ケアのピアレビューの取り組み(資料3-4)についてなされた後、それぞれ参加者間での情報共有が図られた。

また、緩和ケアの地域連携に関する事前アンケート結果(資料4-1)の説明と、国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する、地域緩和ケア連携調整員研修の紹介がなされた(資料4-2)後、青森県立中央病院 山下滋 緩和ケアセンターサブマネージャーより、青森県立中央病院の病院と地域を繋ぐ緩和ケアセンターの活動について(資料4-3) 紹介がなされ、具体的な取り組みについて意見交換がなされた。



全体の議論を踏まえ、がん対策として拠点病院の緩和ケア提供体制の整備が進められてきた今、拠点病院が目指すべき目標について、最終目標の設定と、それに基づく中間目標の設定の必要性について議論がなされた。

患者の立場で参加されたオブザーバーからは、緩和ケアが患者の意見を踏まえてすすめられていることへのコメントや、ピアサポート等のがん医療にがん患者が関わることへの重要性について語られた。

最後に、国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦より、本部会は拠点病院の意見として、国全体にむけた提言をしていく役割も担うため、具体的に意見等をまとめて進めて行きたい旨挨拶があり、閉会となった。

<資料>

[議事次第\(PDF:64KB\)](#)[出席者一覧\(PDF:43KB\)](#)資料1 [緩和ケアに関する連絡事項\(PDF:2.1MB\)](#)

第8回 兵庫県緩和ケアチーム研修会

タイムテーブル

平成29年11月11日（土） 13:30～17:00

兵庫県私学会館 4階大ホール

開始時刻	終了時刻	所要時間	研修内容	担当/講師
13:30	13:40	10	挨拶／本日の説明	公立学校共済組合 近畿中央病院 第1呼吸器内科部長 合屋 将 先生 兵庫県立がんセンター 緩和ケアセンター長 池垣 淳一 先生
13:40	14:25	45	角度をかえてみよう！ 社会的苦痛をひろいあげつなぐ	【講師】 兵庫医科大学病院 社会福祉士 精神保健福祉士 三浦 恵里子 様
14:25	14:35	10	休憩	
14:35	15:20	45	予後予測について	【講師】 医療法人沖繩徳洲会 吹田徳洲会病院 緩和医療科部長 馬場 美華 先生
15:20	15:30	10	休憩	
15:30	16:50	80	PDCAサイクルについて	【講師】 神戸大学医学部附属病院 緩和ケアチーム専従・特定助教 緩和支援診療科 診療科長補佐・外来医長 坂下 明大 先生
16:50	17:00	10	ふりかえり	兵庫県立がんセンター 緩和ケアセンター長 池垣 淳一 先生

参加人数 74名

都道府県ごとの緩和ケア研修会の受講率

(平成29年3月31日時点)

	がん診療において、 がん患者の主治医や 担当医となる者	研修会修了者数	受講率
北海道	1642	1472	89.6
青森県	403	360	89.3
岩手県	518	424	81.9
宮城県	661	528	79.9
秋田県	394	361	91.6
山形県	418	377	90.2
福島県	638	476	74.6
茨城県	664	537	80.9
栃木県	974	727	74.6
群馬県	429	371	86.5
埼玉県	1163	910	78.2
千葉県	1483	1301	87.7
東京都	6252	4296	68.7
神奈川県	2146	1757	81.9
新潟県	651	419	64.4
富山県	605	525	86.8
石川県	540	407	75.4
福井県	489	388	79.3
山梨県	299	240	80.3
長野県	731	572	78.2
岐阜県	575	458	79.7
静岡県	1050	943	89.8
愛知県	2112	1944	92.0
三重県	401	340	84.8
滋賀県	445	419	94.2
京都府	1053	808	76.5
大阪府	2247	2020	89.9
兵庫県	1515	1267	83.6
奈良県	593	497	85.2
和歌山県	482	376	78.0
鳥取県	366	339	92.6
島根県	408	394	96.6
岡山県	822	701	85.3
広島県	1109	939	84.7
山口県	419	328	78.3
徳島県	426	383	89.9
香川県	696	527	75.7
愛媛県	577	526	91.2
高知県	258	223	86.4
福岡県	1557	1381	88.7
佐賀県	407	338	83.0
長崎県	443	411	92.8
熊本県	646	556	86.1
大分県	447	370	82.8
宮崎県	300	249	83.0
鹿児島県	551	404	73.3
沖縄県	294	247	84.0
国立がん研究センター	456	429	94.1
全国	41745	34263	82.1

拠点病院ごとの緩和ケア研修会の受講率

(平成29年3月31日時点)

	がん診療において、がん患者の主治医や担当医となる者	研修会修了者数	受講率
兵庫県立がんセンター	101	93	92.1%
神戸大学医学部附属病院	348	256	73.6%
神戸市立医療センター中央市民病院	151	146	96.7%
独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院	78	76	97.4%
公立学校共済組合近畿中央病院	44	42	95.5%
独立行政法人国立病院機構姫路医療センター	75	65	86.7%
姫路赤十字病院	105	98	93.3%
赤穂市民病院	64	48	75.0%
公立豊岡病院組合立豊岡病院	54	48	88.9%
兵庫県立淡路医療センター	78	73	93.6%
兵庫医科大学病院	257	178	69.3%
西脇市立西脇病院	54	49	90.7%
兵庫県立柏原病院	38	31	81.6%
神戸市立西神戸医療センター	68	64	94.1%

緩和ケア研修会標準プログラム

緩和ケア研修会の内容及び構成については、以下に定めるとおりとする。

(1) e-learning について

e-learning を実施するに当たっては、次に掲げる内容を必ず含むこととする。なお、各項目において診断された時から終末期に至るまでの多様な患者・家族の状況を想定すること。必修科目に関しては、受講者全員が受けることとし、選択科目に関しては、受講者の学習ニーズに応じて選択可能とする。

(i) 必修科目

- ① 患者の視点を取り入れた全人的な緩和ケア（がんと診断された時からの緩和ケアについての説明を含む。）
- ② 苦痛のスクリーニングと、その結果に応じた症状緩和及び専門的な緩和ケアへのつなぎ方
- ③ がん疼痛の機序、評価及びWHO方式のがん疼痛治療法を基本とした疼痛緩和に係る治療計画などを含む具体的なマネジメント方法（医療用麻薬に関する誤解を踏まえた上で、多様化する医療用麻薬の使用上の注意点、副作用やその対策への説明、医療用麻薬の提供における多職種役割、緩和的放射線や神経ブロック等の薬物療法以外の疼痛治療法に関する内容を含む。）
- ④ 呼吸困難等の身体的苦痛に対する緩和ケア（治療に伴う副作用・合併症等の身体的苦痛の緩和を含む。）
- ⑤ 消化器症状等の身体的苦痛に対する緩和ケア（治療に伴う副作用・合併症等の身体的苦痛の緩和を含む。）
- ⑥ 不安、抑うつ等の精神心理的苦痛に対する緩和ケア
- ⑦ せん妄等の精神心理的苦痛に対する緩和ケア
- ⑧ がん等の緩和ケアにおけるコミュニケーション（患者への悪い知らせの伝え方、がん等と診断された時から行われる当該患者の治療全体の見通しについての説明や患者の意思決定支援を含む。）
- ⑨ がん患者等の療養場所の選択、地域における連携、在宅における緩和ケアの実際
- ⑩ アドバンス・ケア・プランニング、家族の悲嘆や介護等への理解、看取りのケア、遺族に対するグリーフケア

(ii) 選択科目（選択科目のうち、2項目以上を学習すること。）

- ① がん以外に対する緩和ケア
- ② 疼痛、呼吸困難、消化器症状以外の身体的苦痛に対する緩和ケア
- ③ 不安、抑うつ、せん妄以外の精神心理的苦痛に対する緩和ケア

- ④ 緩和的放射線治療や神経ブロック等による症状緩和
- ⑤ 社会的苦痛に対する緩和ケア

(2) 集合研修について

集合研修は、e-learning 修了後2年以内に受講することができる。集合研修を実施するに当たっては、次に掲げる内容を必ず含まなければならない。また、研修の順序については問わないが、2日以内に実施し、研修が効果的に行われるように配慮すること。

- ① e-learning で学習した内容の復習及び質問等：45 分以上
- ② グループ演習：180 分以上
 - ア 全人的苦痛に対する緩和ケア（チームアプローチによる観点を含む。）
 - イ がん患者等の療養場所の選択、地域における連携、在宅における緩和ケアの実際
- ③ ロールプレイングによる演習：90 分以上
 - ア がん等の緩和ケアにおけるコミュニケーション（患者への悪い知らせの伝え方、がん等と診断された時から行われる当該患者の治療全体の見通しについての説明や患者の意思決定支援を含む。）
- ④ がん体験者やケア提供者等からの講演、又は集合研修の実施主体や実施主体と連携する施設等において取り組まれているがん患者等への支援：15 分以上

平成 29 年度兵庫県緩和ケアフォローアップ研修会開催報告書

報告日	平成 30 年 1 月 9 日
所属	神戸大学医学部附属病院
氏名	坂下 明大

概要	題名	平成 29 年度兵庫県緩和ケアフォローアップ研修会		
	実施期間	平成 30 年 1 月 8 日（月）13 時—17 時	場所	兵庫県私学会館
	目的	厚生労働省指定の緩和ケア研修会などを修了した医療従事者が、さらなる緩和ケアの知識・技術・態度を習得をすること		
	内容	がんに対する緩和ケアを心不全、呼吸不全、高齢者に対する緩和ケアとともに考え、幅広い実践力を習得することを目的として集合型研修を行う。		
	主催	兵庫県がん診療連携協議会		
	対象者	「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」医師、看護師、薬剤師		
	参加人数	96 名		

報告事項	内容	心不全患者の緩和ケア、呼吸不全患者の緩和ケアとともに、高齢がん患者の特徴や認知症患者へのケアについて講義を行った。		
	プログラム	別紙 添付資料 1		
	講師	兵庫県立姫路循環器病センター 循環器内科 大石醒悟先生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 小川朝生先生 国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 心療内科 松田能宣先生		
	参加者	医師 38 名 看護師 36 名 薬剤師 19 名 心理職など 3 名 運営スタッフ 7 名		
	次回予定	次年度の開催については、兵庫県がん診療連携協議会にて検討予定		

添付資料 平成 29 年度兵庫県緩和ケアフォローアップ研修会プログラム概要

兵庫県がん診療連携協議会「地域連携」部会関連

項目	内容
平成29年度の活動報告	○ 肺がんのイレッサとタルセバのパスに関しては、審議してきたが現時点で作成困難である。 ○ 大腸癌ESDパスは承認された。その運用につき検討を要する。 ○ 電子化について、審議は進んでいない。検討を留保する。
平成30年度の活動計画 及び今後の検討課題等	○ がんパスの使用状況につき各部会で検討する ○ 大腸癌ESDパスの運用につき検討する。